

## 第2部 基本構想

- まちづくりの基本姿勢
- まちづくりの大綱

## 第1章 まちづくりの基本姿勢

### 1 将来ビジョン

# 太陽と緑の環境都市 いい

#### 【将来ビジョンに込めた願い】

本町では、自然と調和した「太陽と緑の環境都市 いい」を将来ビジョンとして掲げ、徳島市近郊の恵まれた立地を活かした良好な住環境の整備を図るとともに、「人とのつながり」「地域とのつながり」「町とのつながり」「明日とのつながり」を大切にしまちづくりを推進してきました。

これからのまちづくりにおいて、本町で暮らすすべての人が、日々の暮らしの中で幸せや楽しさを実感するためには、住み続けたいまちとして本町に愛着を持っていただくことが重要となります。

少子高齢化が進み、多様なライフスタイルを送る人が増えたことで地域のつながりが弱くなっている状況がみられます。時代に即したコミュニティの再構築を図り、住民の誰もがそれぞれの居場所を持てる環境づくりを推進することが大切です。

また、本町が持続可能な発展を遂げ、活気あるまちづくりを推進するために、環境に配慮したまちづくりを推進し、本町が持つ自然の豊かさを次世代に引き継ぐことができるよう、一つひとつ取り組みを推進していきます。

本町が「住みたいまち」「住み続けたいまち」そして「訪れたいまち」となるためには、快適に、かつ、安全に安心して暮らせるまちであることが重要となります。

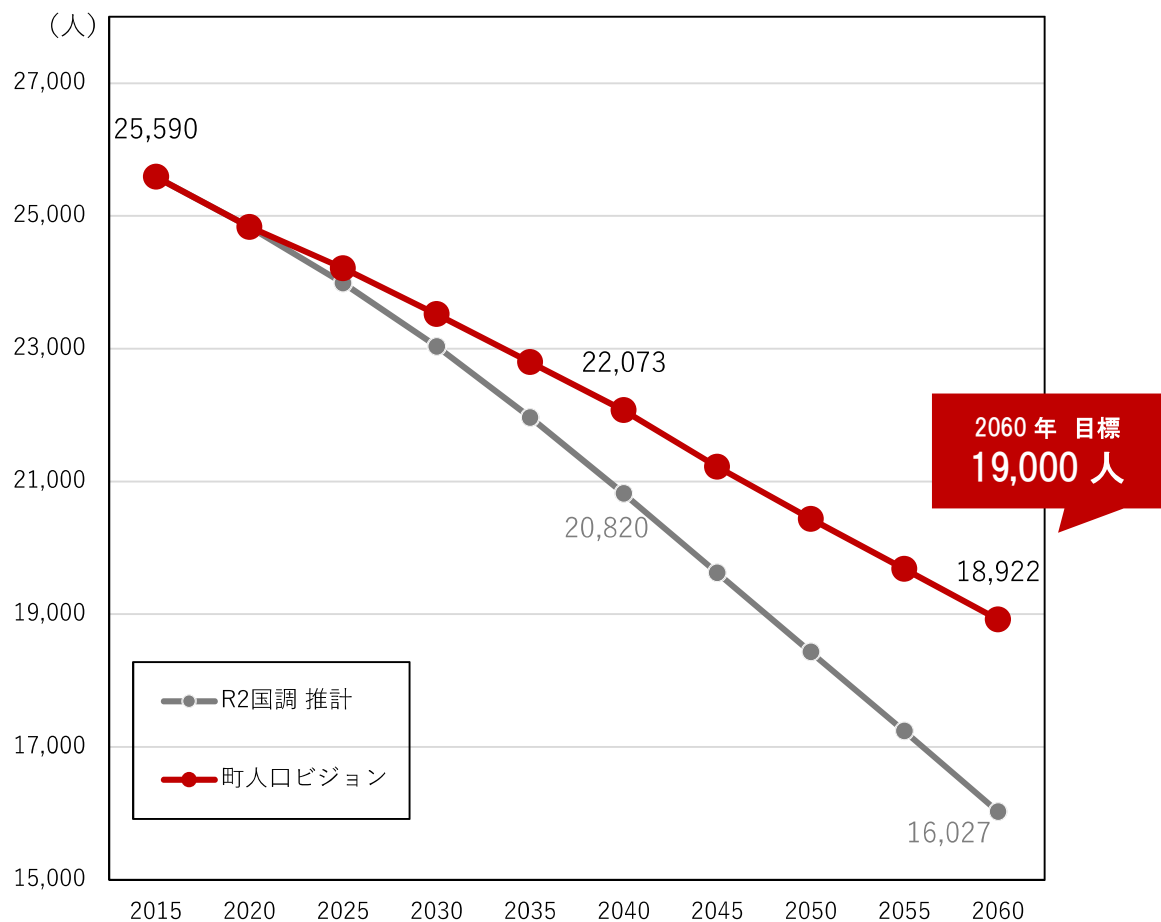
本町が誇る豊かな自然や人のやさしさ等のまちの魅力を最大限に伸ばし、先人より受け継がれた自然や歴史を大切に守り、活かすとともに、ストレスのない快適な生活を営むことができる都市機能の充実を目指します。

本町に住んでいる人も訪れた人も、誰もが笑顔になれる、人にやさしいまち、人にやさしくなれるまちであり続けることを願い、未来が明るいまちづくりを推進します。

## 2 目標人口（人口ビジョン）

将来人口は、生活基盤の整備や雇用機会の創出、教育機関の提供等の面で、将来のまちの規模を示す指標となるものです。

本計画における目標人口（人口ビジョン）は、令和42年（2060年）に19,000人程度の維持を目指します。



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

## 第2章 まちづくりの大綱

### 1 重点目標

本計画は町の最上位計画としてまちづくりの方向性を示すものです。人口ビジョンや総合戦略との整合を図り、総合戦略の目標を重点目標として、人口減少対策とまちの活力向上に向けた取り組みを進めます。

#### 重点目標1

##### 子どもを産み育てやすい環境と移住・定住の促進

本町ならではの充実した子育て環境に磨きをかけ、子どもとその家族、地域が輝く取り組みを推進します。また、本町が全国から選ばれる町であるために、恵まれた自然環境を活かしたまちづくりを推進するとともに、移住希望者や住宅取得希望者の負担軽減を図り、移住・定住を促進します。

#### 主な取り組み

1. 子育て支援の充実
2. 教育の充実
3. 移住・定住支援

#### 重点目標2

##### 暮らしやすい生活環境の形成

住民がいつまでも健康で生活を営むことができ、安全で安心した生活を送ることができるよう、保健・医療・福祉などの各分野の充実を図るとともに、利便性の高い道路環境の整備や地域の持続的発展を目指し、近隣自治体との連携を強化します。

#### 主な取り組み

1. 地域基盤の整備
2. 安心・安全の確保
3. 地域コミュニティの形成
4. デジタルによる利便性の向上

#### 重点目標3

##### 産業の振興と雇用の場の創出

本町の恵まれた地域資源を活用し、付加価値の高い農作物の生産、加工販売を促進するとともに、企業誘致や起業・創業支援を通して新産業の創出を促し、魅力のある“しごとづくり”を推進し、町の活力のさらなる向上に努めます。

#### 主な取り組み

1. 新産業の創出
2. 地域産業力の強化
3. 観光・交流産業の振興
4. 人材の確保・育成

※本章で示した重点目標に対応する具体的な取組内容や指標については、第4部「総合戦略」において詳細に示します。

## 2 基本目標

### 基本目標1 互いに支え合う、人と地域が輝くまちづくり

少子高齢化が進む中で、本町においても住民同士の人間関係の希薄化が進み、認知症高齢者や一人暮らし高齢者、支援者自身の高齢化など、支援を必要とする人が増えています。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、住民一人ひとりの「住み続けたい」という思いを実現することが重要です。また、心身の健康だけでなく、社会とのつながりや生活の満足を含めた、心と体、社会的な面のすべてが満たされた状態であることを指すウェルビーイングの実現を目指します。

子どもはこれからの社会を担う大切な地域の宝です。本町が持続的に発展するために、若い世代が結婚し子どもを育てたいと思える環境づくりや、子育てのしやすさを高める取り組みを進めます。さらに、交流や地域活動に参加しやすい仕組みを整え、年齢に関わらず誰もが役割を持ち、生きがいを感じながら暮らせる地域づくりを進めます。医療や介護体制の充実に加え、地域で支え合う仕組みを整え、すべての住民がともに暮らせる地域社会をめざします。

### 基本目標2 自然と調和した安全・安心な環境都市

本町は豊かな自然に恵まれ、災害が少ない地域ですが、近年は異常気象による水害や南海トラフ地震が懸念され、防災・減災の取り組みがより重要となっています。住民の生命や財産を守るため、防災・防犯体制の充実を図り、安心して暮らせるまちづくりを進めます。

また、町内外の移動を円滑にする交通基盤や、快適な住環境の整備を進めることが重要です。環境に負担をかけない生活様式や循環型の暮らし（GX）の考え方を取り入れながら、自然を守りながら暮らせる地域を目指します。省エネルギーへの配慮や、ごみを減らす生活、自然の恵みを活かしたまちづくりを進め、人と自然が共に生きるまちを実現します。

### 基本目標3 住民とともにつくる協働のまちづくり

働く場所を増やし、仕事にやりがいを感じられるまちとするため、企業誘致や新しい仕事づくりを支援し、農業や商工業、地場産業の継承と活性化を進めます。自然や歴史をいかした観光振興にも取り組み、地域の魅力を広げていきます。

人口減少やニーズの多様化に対応するためには、行政の仕組みを効率的なものにしていくことが求められます。そのため、デジタルの力を活用し、手続きの負担を軽くしたり、必要な情報により簡単にアクセスできるようにするなど、日常生活と行政運営の両面で「暮らしの便利さ」を高めます。また、公共施設の適切な維持や職員の能力向上を進め、持続可能な行政運営を行います。

これらを進めるうえでは、県や周辺自治体とも役割を分担しながら、広域的な課題の解決に取り組むことが重要です。

住民、事業者、行政が力を合わせて、共にまちをつくる体制を整えます。

### 3 計画体系図

将来ビジョン	総合戦略	基本目標	基本施策	施策分野群の目標	施策分野
太陽と緑の環境都市 いしい	<b>【基本姿勢】</b> 住みたい、住み続けたい 選ばれるまち 石井町の実現  <b>【重点目標】</b> ① 子どもを産み育てやすい環境と移住・定住の促進 ② 暮らしやすい生活環境の形成 ③ 産業の振興と雇用の場の創出	① 互いに支え合う、人と地域が輝くまちづくり	1-1	健康的な暮らしの推進	●保健 ●医療
			1-2	高齢者・障がい者福祉の充実	●障がい者福祉 ●高齢者福祉・介護
			1-3	地域の支え合いの推進	●地域福祉 ●社会教育・生涯学習・生涯スポーツ ●地域文化・交流 ●青少年健全育成 ●人権 ●社会保障
			1-4	子育て環境と教育の充実	●児童福祉 ●幼稚園教育 ●義務教育
		② 自然と調和した安全・安心な環境都市	2-1	安全で快適な生活環境の確保	●土地利用 ●水利用 ●道路・交通体系
			2-2	安心した暮らしの実現	●住宅 ●上水道 ●下水道・汚水処理 ●墓地・火葬場
			2-3	安全・安心のまちづくり	●防災・消防 ●防犯 ●交通安全
			2-4	環境に配慮したまちづくり	●環境衛生 ●公園緑地
		③ 住民とともにつくる協働のまちづくり	3-1	地域産業の活力増進	●農業 ●工業 ●商業・観光
			3-2	協働と行政運営の推進	●住民参画 ●行政運営 ●財政運営
			3-3	広域行政の推進	●広域行政